

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300090		
法人名	有限会社 ほたるの里		
事業所名	三日月紀水苑		
所在地	小城市三日月町織島4773-1		
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 22 日	評価結果市町村受理日	平成23年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成22年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「今を楽しく 家族に安心を 地域と共に手をつなぎ輪を持って共に喜びを分かち合おう」を理念に掲げ、5月にはほたるが飛び交う広い中庭が自慢の三日月紀水苑です。その中庭を活かし、5月と9月には家族、地域の住民を招いて食事をしたり催しを楽しんだり楽しい時間を過ごしています。誰でも気軽に立ち寄れるうグループホームを目指して日々努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「三日月紀水苑」は、小城市の北部に位置しており、天山が間近に見える所にある。ホームのすぐ側には清流が流れており、5月には蛍が飛び交う風景が数多く見られるとのことである。ホーム内には大きな芝生の中庭があり、季節ごとの草木を植えられている。樹木の成長や、果実の実りを眺めながら、暮していける環境であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印				
				第一棟	第二棟	第一棟	第二棟
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)			<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「今を楽しく」「家族に安心を」「地域と共に手をつなぎ輪を持って共に喜びをわかち合おう」を理念として掲げている。毎朝の申し送り時に復唱している。	「今を楽しく」「家族に安心を」「地域と共に手をつなぎ輪を持って共に喜びをわかち合おう」を理念として掲げている。毎朝の申し送り時に復唱している。	理念の共有については一日の始まりである朝礼で必ず復唱している。この理念は発足当時に皆で考え出したものである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や防災訓練を通して、市町村担当者、地域住民、消防署との交流を図っています。年1回の中学生による職場体験の受け入れを行い交流を行っている。	運営推進会議や防災訓練を通して、市町村担当者、地域住民、消防署との交流を図っています。年1回の中学生による職場体験の受け入れを行い交流を行っている。	地域との繋がりとしては、敬老会等に近所の子供たちを呼んで行っている。また体験学習の受け入れもしており、時々その中学生達が立ち寄り交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、自治会長、民生委員、婦人会長、市町担当者の方に地域の高齢者の現状などを聞き出して話し合っています。	運営推進会議にて、自治会長、民生委員、婦人会長、市町村担当者の方に地域の高齢者の現状などを聞き出して話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業報告、状況報告の説明を行い、会議メンバーの方より意見をもらってそれをサービス向上に活かしている	運営推進会議にて事業報告、状況報告の説明を行い、会議メンバーの方より意見をもらってそれをサービス向上に活かしている	出席しやすいように、開催時間の配慮やイベントとの共同開催等で運営会議を実施している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所に利用者の代行の手続きや生活支援の相談などを行っています。	市役所に利用者の代行の手続きや生活支援の相談などを行っています。	広域のグループホーム部会等で連携している。市の担当部署とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会や会議などで十分に指導し、マニュアルの作成、又職員の目の届く所に「身体拘束ゼロ宣言」を掲げている。	勉強会や会議などで十分に指導し、マニュアルの作成、又職員の目の届く所に「身体拘束ゼロ宣言」を掲げている。	身体拘束については研修会や勉強会等で十分理解しているが、ベットに4点柵で対応している事例がある。	身体拘束をしない方向で職員が話し合いをして、拘束に頼らない介護を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料、マニュアルを作成し、スタッフ会議などで学習、指導し虐待防止に努めています。	資料、マニュアルを作成し、スタッフ会議などで学習、指導し虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	FC勉強会、グループホーム部会などで、学ぶ機会を設けています。	FC勉強会、グループホーム部会などで、学ぶ機会を設けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、利用者や家族の方と十分に話し合い、理解納得をして頂いた上で、安心して入居頂けるように努めています。料金改正時には、説明を行い同意を得ています。又苑での要望なども伺っています。	契約時には、利用者や家族の方と十分に話し合い、理解納得をして頂いた上で、安心して入居頂けるように努めています。料金改正時には、説明を行い同意を得ています。又苑での要望なども伺っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には、苦情、意見箱を設置し、毎月のほたる通信の欄に、ご意見、ご要望を聞きだす項目を入れ要望を聞き出すようにしています。	玄関には、苦情、意見箱を設置し、毎月のほたる通信の欄に、ご意見、ご要望を聞きだす項目を入れ要望を聞き出すようにしています。	家族の意見等の反映については苦情箱を設置している。工夫としては面会時にコミュニケーションを取ったりこまめに電話もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のスタッフ会議にて、意見の交換をしています。又申し送りノートを利用し、意見の交換をしています。	月2回のスタッフ会議にて、意見の交換をしています。又申し送りノートを利用し、意見の交換をしています。	職員の意見の反映については月1回、全体会議があり、月2回ユニット毎に会議が行われている。出た意見はまず試してみるようにしている。ホーム長とも年2回面談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価、管理者による個人面談を行い要望、意見などを聞いています。	年2回の自己評価、管理者による個人面談を行い要望、意見などを聞いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が技術や知識を身につくように研修の参加を働きかけています。	全職員が技術や知識を身につくように研修の参加を働きかけています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設への交流研修会への参加。他施設との合同勉強会への参加	他施設への交流研修会への参加。他施設との合同勉強会への参加		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者に本人の希望や不安点などを聞けるように時間を設けています。又入居者各担当を設け話を聞く機会を作っています。	入居者に本人の希望や不安点などを聞けるように時間を設けています。又入居者各担当を設け話を聞く機会を作っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の方に来て頂き苑の雰囲気などを見て頂き、その際、要望や不安点などを聞き出しています。	入居前にご家族の方に来て頂き苑の雰囲気などを見て頂き、その際、要望や不安点などを聞き出しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は、十分に本人と、ご家族の意見を取り組み、介護計画の見直しを行っています。又、利用者に合わせた他のサービスの提供も行っています。	相談を受けた際は、十分に本人と、ご家族の意見を取り組み、介護計画の見直しを行っています。又、利用者に合わせた他のサービスの提供も行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の残存機能を活かし、出来ることを見つけ共に喜んだり、スタッフの相談などを聞いて頂いています。	利用者の残存機能を活かし、出来ることを見つけ共に喜んだり、スタッフの相談などを聞いて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者家族の方には、毎月ほたる通信と一緒に生活状況を各担当者が記入し送付、月の状況を知って頂けるよう支援しています。	家族の方より差し入れがあったり、手紙を頂き、感謝の言葉を頂いたりしています。又家族参加行事に参加して頂き、一緒に食事して頂き介助もされています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間を定めないことにより、気楽に面会に来ていただけるように努めています。家族、友人への電話の取りつぎ、友人の面会もあっています。	面会時間を定めないことにより、気楽に面会に来ていただけるように努めています。家族、友人への電話の取りつぎ、友人の面会もあっています。	面会については夜9時頃までは受け入れている。電話があれば柔軟に対応している。よく利用者に知人からの電話がある。また通いなれた美容院等との関係も継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生会、レクレーションなど全員で行い、利用者間の関係を深めて頂くような支援をしています。	誕生会、レクレーションなど全員で行い、利用者間の関係を深めて頂くような支援をしています。		

自己	外部	項目	自己評価（第一棟）	自己評価（第二棟）	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の相談など受け助言を行い、その後も面会をし経過を見守っています。	退去時の相談など受け助言を行い、その後も面会をし経過を見守っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者に本人の希望や不安点などを聞けるように時間を設けています。又入居者各担当を設け話を聞く機会を作っています。	個人の意向に合わせた介護計画書を作成しています。又、定期的に各担当者が要望を聞きだしその都度間直しを行っています。	利用者とは担当制になっており、意見の聞き取りを行っている。重度の方の希望等は聴取できないので、家族等からの希望を取り入れて対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の生活歴を活かし馴染みのある生活環境を行い、面会時には、家族様との会話で関係を深めて行けるような、配慮をしています。	入居時の生活歴を活かし馴染みのある生活環境を行い、面会時には、家族様との会話で関係を深めて行けるような、配慮をしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月2回の会議にてケアカンファレンスを開き、スタッフ全員で話し合い入居者の現状把握に努めています。	月2回の会議にてケアカンファレンスを開き、スタッフ全員で話し合い入居者の現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価、モニタリングを行い、入居者、家族の要望を聞き担当者会議で意見を出し合い介護計画書の作成をしています。状態の変化があった時は、カンファレンスを開き状態に応じた介護計画を作成しています。	評価、モニタリングを行い、入居者、家族の要望を聞き担当者会議で意見を出し合い介護計画書の作成をしています。状態の変化があった時は、カンファレンスを開き状態に応じた介護計画を作成しています。	情報はホーム長や主任等から収集している。会議は基本、全員参加であり、職員の見解も反映され個別性を重視した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者に変化があった際は、個別記録に記入し必要な時は、申し送りノートに記入し全スタッフに周知しています。その後、棟会議にて、ケアカンファレンスを話し合っています。	利用者に変化があった際は、個別記録に記入し必要な時は、申し送りノートに記入し全スタッフに周知しています。その後、棟会議にて、ケアカンファレンスを話し合っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時の協力病院の確保、及び体験入居などいつでも出来るように備えています。	緊急時の協力病院の確保、及び体験入居などいつでも出来るように備えています。		

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には、民生委員の方にも参加していた頂き情報交換をしています。又地域の方のボランティアの参加も受け入れています。	運営推進会議には、民生委員の方にも参加していた頂き情報交換をしています。又地域の方のボランティアの参加も受け入れています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時に対して協力病院を確保しています。又、月1回の掛かりつけ院による回診があり、その際に利用者の状態を報告しています。認知症専門医院の受診、週1回の歯科回診も行っています。	緊急時に対して協力病院を確保しています。又、月1回の掛かりつけ院による回診があり、その際に利用者の状態を報告しています。認知症専門医院の受診、週1回の歯科回診も行っています。	医療の連携については往診・受診・入院と、十分な連携がとられ、救急時にも対応できている。また定期的に検診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務し、日常の健康管理や受診の支援をしています。	看護師が勤務し、日常の健康管理や受診の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の利用者に対しては、家族や、入院先の看護師などと情報交換、医師、本人、家族との退院計画などの話し合いを行っています。	入院中の利用者に対しては、家族や、入院先の看護師などと情報交換、医師、本人、家族との退院計画などの話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約書の中で、重度化した場合、終末期の指針説明し同意を得ています。	入居時の契約書の中で、重度化した場合、終末期の指針説明し同意を得ています。	終末期の支援については、契約で確認している。希望や意見を取り入れながら、柔軟な対応もなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議、FC合同勉強会などで学ぶ機会を設け、訓練も行い実践力を身に付けている。	スタッフ会議、FC合同勉強会などで学ぶ機会を設け、訓練も行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防機関立ち会いのもと、自治会長、民生委員、家族会、地域の参加のもと年2回訓練を実施しています。	消防機関立ち会いのもと、自治会長、民生委員、家族会、地域の参加のもと年2回訓練を実施しています。	災害対策については夜間を想定した訓練が行われており、また勉強会でも確認している。すぐ近くを河川が流れており、増水時の対応も地域と連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方には、常に尊厳の念を持って接するようにと指導しています。排泄誘導の際は、さりげない声かけを行い、プライベートカーテンは、必ず閉めるように指導しています。	利用者の方には、常に尊厳の念を持って接するようにと指導しています。排泄誘導の際は、さりげない声かけを行い、プライベートカーテンは、必ず閉めるように指導しています。	排泄介助については、本人の尊厳を傷つけない様に自然体で声かけをしている。トイレはカーテン式で開閉し易く、臭いにも気配りされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が外出を希望された時は、聞き入れし、入浴の際は、着替えなど一緒に選んだりしています。	食事の準備や、献立の希望がある場合などは、一緒に行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	上下肢訓練やレクリエーションの参加は、無理に誘わず自己決定していただいています。食事や入浴も十分な時間を設け、本人のペースに合わせています。	上下肢訓練やレクリエーションの参加は、無理に誘わず自己決定していただいています。食事や入浴も十分な時間を設け、本人のペースに合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類などは、利用者と一緒に選ぶようにしています。希望があれば衣類の購入を一緒に行く支援をしています。	衣類などは、利用者と一緒に選ぶようにしています。希望があれば衣類の購入を一緒に行く支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を作る際入居者の希望を聞きメニューに取り入れ、又食器拭きや、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ等職員と一緒にしています。	献立を作る際入居者の希望を聞きメニューに取り入れ、又食器拭きや、テーブル拭き、野菜の下ごしらえ等職員と一緒にしています。	希望を取り入れながら、偏らないように、10日分づつ栄養士が計画されていた。また食事形態も本人にあった物が提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後の食事摂取量、水分摂取量を記入し、一人ひとりの状態が解るように全職員で支援しています。	毎食後の食事摂取量、水分摂取量を記入し、一人ひとりの状態が解るように全職員で支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、利用者の能力に合わせて行い、週1回の歯科医の往診があり、指導をうけている。	毎食後の口腔ケアは、利用者の能力に合わせて行い、週1回の歯科医の往診があり、指導をうけている。		

自己	外部	項目	自己評価（第一棟）	自己評価（第二棟）	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	下着、オムツの使用は、メリハリをつける必要時に利用しています。排泄チェック表に記入し排泄パターンを理解しトイレ誘導を行っています。	下着、オムツの使用は、メリハリをつける必要時に利用しています。排泄チェック表に記入し排泄パターンを理解しトイレ誘導を行っています。	排泄については定時誘導をしており、尿意がない方についても同様に行われている。上手いかない場合にも、本人が落ち込まないような配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の水分補給を行い、体操時には、便秘ツボの運動などで予防に、取り組んでいます。	起床時の水分補給を行い、体操時には、便秘ツボの運動などで予防に、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調、希望に応じて入浴の時間などを提供しています。	利用者の体調、希望に応じて入浴の時間などを提供しています。	入浴については原則2日に1回行われており、希望があれば毎日でも入れる。入る順番にも配慮されている。また、浴室は掃除が行き届いていて清潔である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間などは定めずに、好きな時間まで談話したりテレビ視聴したりして頂けるようにしています。巡回時も安眠の妨げにならないように考慮しています。	消灯時間などは定めずに、好きな時間まで談話したりテレビ視聴したりして頂けるようにしています。巡回時も安眠の妨げにならないように考慮しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用を一覧表にし職員が把握できるようにし、飲み忘れ、誤薬防ぐため、その日のリーダーが毎食後チェックを行っている。	薬の目的や副作用を一覧表にし職員が把握できるようにし、飲み忘れ、誤薬防ぐため、その日のリーダーが毎食後チェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自宅で使用していたタンスなど、居室でそのまま使用して頂き、役割として洗濯物干しや、たたみなどを手伝っている。中庭でレクリエーションなどを行い気分展開の支援を行っている。	自宅で使用していたタンスなど、居室でそのまま使用して頂き、役割として洗濯物干しや、たたみなどを手伝っている。中庭でレクリエーションなどを行い気分展開の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて近隣の散歩や買い物、家族様との外出にも支援して、また天気の良い日は、中庭に出て気分転換の為散歩などを行っている。	入居者の希望に応じて近隣の散歩や買い物、家族様との外出にも支援して、また天気の良い日は、中庭に出て気分転換の為散歩などを行っている。	外出支援では苑の周りによく散歩に出掛けている。また中庭が広く、芝が植えてあり、テーブルや椅子もあっていつでも日光浴を楽しむことができる。	

自己	外部	項目	自己評価(第一棟)	自己評価(第二棟)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望に応じてお金を所持され一緒に買い物などに行く支援をしている。	希望に応じてお金を所持され一緒に買い物などに行く支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望の方には、電話の引き継ぎを職員のほうで行い、また年賀状は、本人の自筆をできる限り活用して家族に送付している。	希望の方には、電話の引き継ぎを職員のほうで行い、また年賀状は、本人の自筆をできる限り活用して家族に送付している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の集まるホールなどは、室温に一番気を付けています。壁絵等も季節に合わせて張り替えています。日差しの強いときは、ブラインドの利用もしています。	利用者の集まるホールなどは、室温に一番気を付けています。壁絵等も季節に合わせて張り替えています。日差しの強いときは、ブラインドの利用もしています。	空間については、廊下の掲示物は整然と並べられており、見やすい様に工夫がなされている。中庭に花壇があり、目で楽しむ事が出来る。柑橘類の木もあり、成長も楽しみの一つである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを設け利用者の方、個人個人が過ごせるようにし、気の合った同士の会話など居室にてもおこなわれています。	ホールには、ソファを設け利用者の方、個人個人が過ごせるようにし、気の合った同士の会話など居室にてもおこなわれています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、馴染みのものを使って頂き、写真などを飾って頂き各居室にも果物の名前を掲示し覚えやすいように工夫しています。	居室には、馴染みのものを使って頂き、写真などを飾って頂き各居室にも花の名前を掲示し覚えやすいように工夫しています。	居室には加湿器も備え付けてあり、快適に生活できる環境が整っている。また仏壇が置いてある居室もあり、希望が叶えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの入り口には、入居者が解るように工夫したり、ベツにて危険のある人には、畳に変更したりし状態に合わせた工夫をしています。	トイレの入り口には、入居者が解るように工夫したり、ベツにて危険のある人には、畳に変更したりし状態に合わせた工夫をしています。		